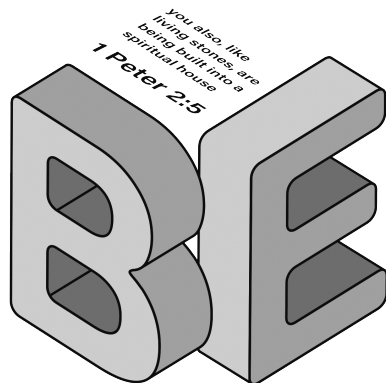


YOUTH MANNA



あなたがた自身も生ける石として霊の家に築き上げられ、神に喜ばれる霊のいけにえをイエス・キリストを通して献げる、聖なる祭司となります。
(ペテロの手紙第一 2章42節)

2025/6/23(月)

I 列王記 12:1-15

●ヤロブアムの「あなたの父上は、私達のくびきを重くしました。過酷な労働と重いくびきを軽くしてください(4)」という発言から、イスラエルの民の暮らしぶりはどのようなものだったと言えるかな？
●レハブアムは、返答するにあたって誰に相談したかな？また、どちらの人の意見を採用しただろう。(6-11、13-14)

★色々な人に相談すると様々な角度から答えが返ってくるけど、時に「沢山の意見」により私達は混乱してしまうことがある。また、レハブアムのように、自分にとって心地よい声にだけ耳を傾けるのも違う。誰かに相談する時、相談のタイミング、相談する人、聞いた内容を選びとることにおいて、神様のみこころを求めている！

2025/6/24(火)

I 列王記 12:16-33

●レハブアムは民のことばに耳を貸さなかった。そのことは国にどのような結果を招いただろう。

●こうしてソロモンに言われた「王国を引き裂く」という預言がその通り成就した(11:31)。しかしここでユダ王国とイスラエル王国の戦いを辞めさせたことには神様のどんな心があるだろうか？(24)神様の目的は滅ぼすことではなく、民を神に立ち返らせることだったよ。

●ヤロブアムの犯した罪。それは何世代にも渡って国全体に悪い影響を与え続けるほどの恐ろしい罪だった。彼がなぜ罪を犯したのか、原因となる心の思いについて考えてみよう。そしてここには、私たちへの警告はあるだろうか？

2025/6/25(水)

I 列王記 13:1-10

●神様から遣わされた一人の人が登場する。彼が預言した内容はどんなことだろうか。また、そのためのしるしはどんなことだった？

●そのことばの通りに祭壇は裂け、灰はこぼれ出た。また、2節の預言は何と300年後に実際に起こることになる(第二列王23章)ここから、神様のことばについてどんなことが分かるだろう？

●神の人は王であるヤロブアムの誘いに乗らず、あくまでも神様のことばに従った。この世界で神様を信じて歩むとはどういうことか、考えてみよう。

2025/6/26(木)

I 列王記 13:11-34

●一人の年老いた老預言者が住んでいた町はベテルだった。この町はヤロブアムが偶像の祭壇を築いた町だよ。彼は本来の預言者としての働きをしていなかったように見えるね。君はどう思うかな？

●彼は神の人を招きたくて、主の名前を出してまで嘘をついたね(18)。彼の神様のことばに対する態度はどのように見える？

●彼は預言者としての自覚を失い、神のことばへの恐れも失われていたかもしれない。悲劇的な出来事となったけれど、そのことを通して、彼は主のことばにどのような確信を持つようになっただろうか。32節を読もう。みことばに本気に向き合うことについて考えてみよう！

2025/6/27(金)

I 列王記 14:1-20

1-6vを読もう。
●ヤロブアム王は誰の所に妻を送ることにしたかな？なぜその人だったのだろう？

●どうして妻を変装させて預言者アヒヤに会わせただと思う？*ヒント：11:30-38。アヒヤはダビデの道に歩むよう語ったけど、ヤロブアムは即位してから国内に偶像礼拝所を何ヶ所も作った。

●ヤロブアムはアヒヤの預言を都合の良く受け入れ、一番大切な部分を守らなかった。僕らも自分の都合よくみことばや教会を使っているってことないだろうか？本当に大切にすべき部分はおるそかにしてないだろうか？

2025/6/28(土)

I 列王記 14:21-31

今日の箇所はお父さんソロモンの後に王様になり、国が分裂するきっかけをつくったレハブアムが登場したね。レハブアムが治めていた南ユダ王国では、偶像礼拝やそれに関係する神様が悲しむ習慣が広まっていた。

もともと神様を礼拝する場所だったところも段々と偶像礼拝になっていってしまうこともあった。神様から離れた結果、ユダ王国は争いが続き、他の国にたくさんものを奪い取られてしまう。

だけど、神様は最後まで見捨てず神様に立ち返るのを待っていてくださることも聖書を読み進めるとわかるよ。私たちも神様以外に頼る誘惑から守られて、神様に信頼していけるよう祈ろう！

2025/6/29(日)

I 列王記 15:1-24

南ユダの王アビヤムとアサは、列王記と歴代誌で評価が異なります。アビヤムは列王記で否定的に描かれますが、歴代誌では信仰者としての姿も見られます。アサは列王記で高く評価されますが、歴代誌では神様への信頼を欠く場面も描かれます。

人には信仰と弱さの両面がありますが、神様はすべてをご存じで、真実に歩もうとする者を見ていてくださいます。失敗の中でもなお神様を求め続けていきましょう。